

学校教育と博物館活動

～学校の博物館利用の状況と展示物等に対する意識調査～

*高木 繁 *弓削 政憲

The connection between the schooling and the museum communication activities

Shigeru Takaki, Masanori Yuge

I はじめに

鹿児島県立博物館は、昭和56年1月、自然史・理工・天文（プラネタリウム）・考古の各資料を展示する総合博物館として新装開館した。これを機に博物館に対する一般県民の関心も高まり、見学者が急増する一方、学校教育の一環として博物館を利用する学校も増えてきた。

博物館は、社会教育機関として、一般県民の利用に供すると同時に、学校や他の教育機関・団体等が行う広義の教育活動の中で、組織的・計画的に利用されることを期待している。博物館法にも示されているように、博物館は学校教育や社会教育と協力し、それらを援助しなければならない。このことは、生涯教育をめざす社会や学校の最近の動向から、いっそう重要な意味と現実性を持って来ているといえよう。

図1 学校教育と博物館の関連

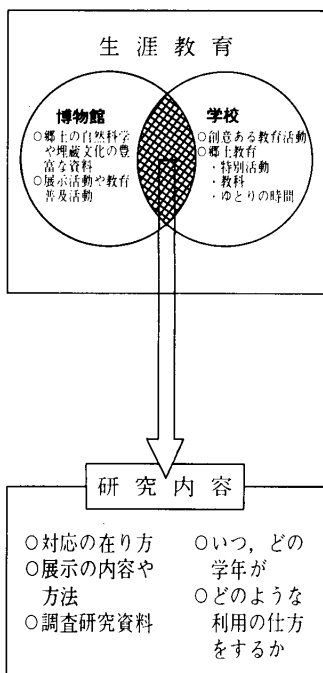
ちなみに現行学習指導要領では、豊かな人間性を培うため、ゆとりある充実した学校生活を送れるように、学校の創意ある教育活動を工夫するようになっており、また、本県教育の重点目標である郷土教育の観点からも、郷土の自然・文化に触れ親しむ体験的な学習活動が要望されている。

博物館が学校に期待することは、学校教育の中で博物館を活用し、その活用の過程で生涯教育（学習）の基礎を児童・生徒に体得させることである。

このように、学校教育と博物館活動は、共役する部分を持ち両者が協力することによって、相乗的な効果を期待することができる。

ここではまず、学校の児童・生徒の博物館利用の状況と展示物等に対する意識とを調査・分析・検討することによって、学校教育に対する博物館側の改善資料を得ることにした。

この調査に当たっては、市町村教育委員会及び調査を依頼した学校に多大な協力をいただいた。深く謝意を表したい。



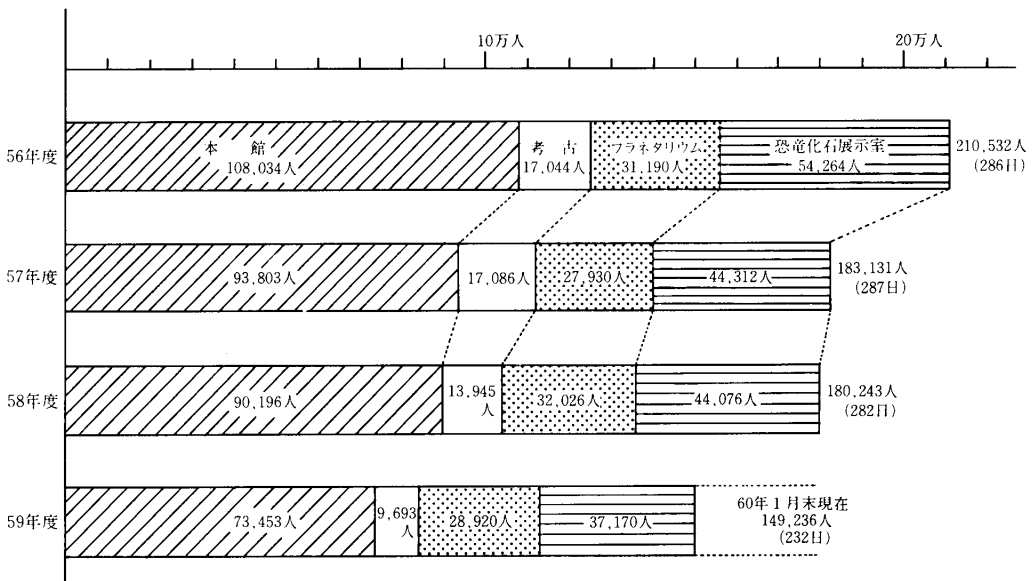
II 博物館の利用状況の調査

1 博物館利用者の概況

県立博物館では、昭和56年1月新装開館以来、利用者が増大したが、ここでは、過去4年間の利用者の概況について記述する。なお、利用者数の集計に当たっては、博物館利用者記録簿に基づいて行った。

(1) 年度別施設別の利用者の動向

図2 年度別施設別の利用者数



昭和56年1月12日の開館から56年3月末までは58,390人の利用者があった。また、開館以来、60年1月末までは、総計781,532人の利用者があり、これは1日平均約680人が利用したことになる。

56年度は、新装開館ということで、21万人を越えている。57年度と58年度は共に18万人台で、安定してきている。59年度は、60年1月までの集計であるが、また減少しそうな傾向にある。施設別に見ると、本館の利用者数が圧倒的に多いが、それだけに減少する数も大きくなっている。

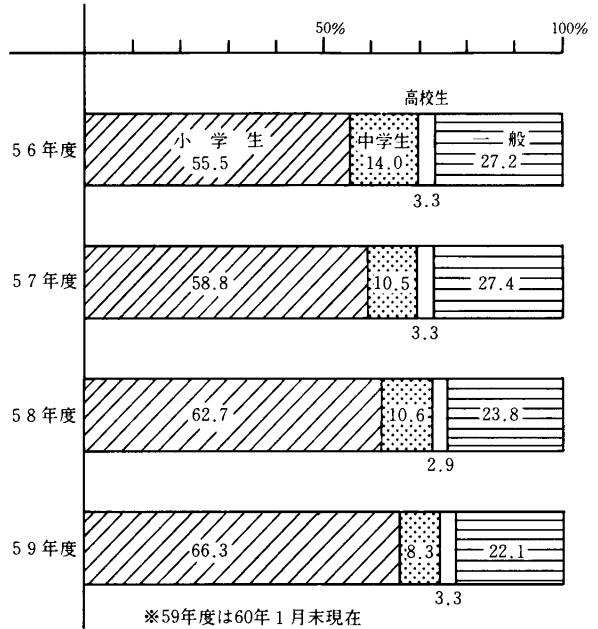
利用者が開館頭多く、次第に減少していくという傾向は他の博物館等でも見られることであろうが、本館の減少の原因はどこにあるのか明らかにしてゆきたい。

(2) 年代別利用者の動向

図3 年代別利用者の動向

利用者の年代別の割合を見ると、小学生の占める割合が高く、高校生は低い。また、年度別の動向を見ると、小学生の占める割合は、年々高くなっているが、中学生と一般の割合は減少の傾向が強い。高校生の占める割合には殆んど変化がない。

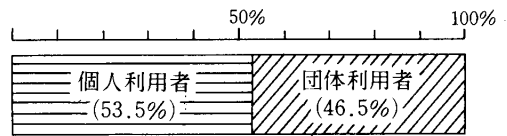
先の項で述べたように、利用者総数が年々減っていたが、これは、中学生と一般の減少が大きいということになる。



(3) 個人・団体別の利用者

博物館利用には、一人、友人同士、家族連れなどの個人利用と、学校、諸社会教育関係団体、一般の旅行団体などの団体利用の場合がある。昭和58年度の個人利用者と団体利用者の比率は、わずかに個人利用者の方が高くなっている。これは、他の年度でも同じような結果である。

図4 個人利用者と団体利用者(昭和58年度)



(4) 学校の団体利用(県内)

博物館を団体利用した県内国公立の小・中・高等学校の数は、表1の通りである。

学校種別で見ると、小学校の利用が多く、年々県内小学校の約三分の一以上の小学校が利用していることになる。これに比べ、中学校・高等学校の利用はかなり少ない。

昭和59年度の数、60年1月末までの集計であるが、小・中学校とも減少の傾向にある。

表1 学校の団体利用の状況

年度 \ 学校種	小学校	中学校	高等学校
57年度	237校	47校	5校
58年度	258	43	5
59年度	(220)	(25)	(4)

※昭和59年度は1月末現在

以上、博物館利用者記録簿をもとに、利用者の状況を分析してきたが、利用者や利用団体が年々減少する傾向にあり、中でも、中学生の減少傾向が大きいということが明らかになった。

次項では、アンケート調査の結果に基づいて検討してみたい。

2 小・中学生の個人来館状況の動向

ここでは、小・中学生の個人別の来館頻度と展示物に対する興味・関心度を把握するためアンケート調査を実施したので、その結果について述べる。

(1) 調査の方法

この調査は、全県域の小・中・高校生、一般を対象に実施しなければならないが、今回は、調査の対象を鹿児島市の小学校6年生と中学校3年生に限定し、鹿児島市立の全小・中学校に調査を依頼した。また、調査は、各校で任意に1クラスを選び、昭和60年1月7日～26日の期間中に実施し、返送するように依頼した。

なお、アンケートの内容と形式は、次の通りである。

① 6年生用 アンケート用紙

○印をするか、[]の中に記入してください。

男・女 [] 郡 [] 市町

1 あなたは、今までに県立博物館に行ったことがありますか。
ある ない

・「ある」と答えた人は、次の②③④に答えてください。
・「ない」と答えた人は、次の⑤に答えてください。

2 あなたが、今までに県立博物館に行った回数はどれくらいですか。
1回, 2回, 3回, 4回, 5回以上

3 その時、あなたはだれといっしょに行きましたか。
(何回も行ったことのある人は、いくつでも○印をつけてください)
1 1人で 2 友だちと
3 家族で 4 学校の先生と
5 地域の子ども会などで
6 その他 []

4 県立博物館に行って、いちばん心に残っていることを書いてください。

5 あなたが、今までに県立博物館に行かなかった理由は何でしょうか。簡単に書いてください。

中・高 3年生用 アンケート用紙

○印をするか、[]の中に記入してください。

男・女 [] 郡 [] 市町

1 あなたは、今までに県立博物館に行ったことがありますか。
ある ない

・「ある」と答えた人は、次の②③④に答えてください。
・「ない」と答えた人は、次の⑤に答えてください。

2 あなたが、今までに県立博物館に行った回数はどれくらいですか。
1回, 2回, 3回, 4回, 5回以上

3 その時、あなたはだれといっしょに行きましたか。
(何回も行ったことのある人は、いくつでも○印をつけてください)
1 1人で 2 友だちと
3 家族で 4 学校の先生と
5 地域の子ども会などで
6 その他 []

4 県立博物館に行って、いちばん心に残っていることを書いてください。

5 あなたが、今までに県立博物館に行かなかった理由は何でしょうか。簡単に書いてください。

アンケートの分析ができた学校数と児童生徒数（アンケート用紙数）は、表2のようになる。

分析した児童・生徒数は、鹿児島市内の全小学校6年生の22%、市内の全中学校3年生の12%にあたる。

表2 分析した学校数とアンケート数

		学校数	アンケート数
小学校6年生	男	50(54)	947(4,366)
	女	50(54)	863(4,063)
中学校3年生	男	22(29)	455(3,869)
	女	22(29)	439(3,709)

() は、鹿児島市立の学校数、生徒数を表わす。

(2) 調査の結果

ア. 小・中学校別、性別の来館頻度

博物館を見学した経験のあるものは、小学校6年生で70%、中学校3年生では、中学生になってから30%である。

この傾向は、性別に関係ない(図5参照)来館経験者を来館頻度別に百分率で表すと、図6のようになる。

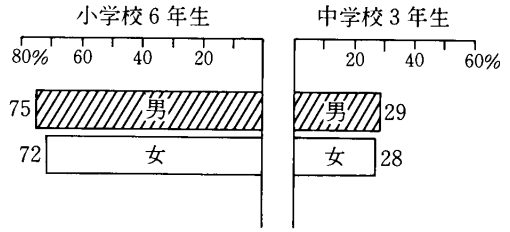


図5 学校別・性別来館経験率

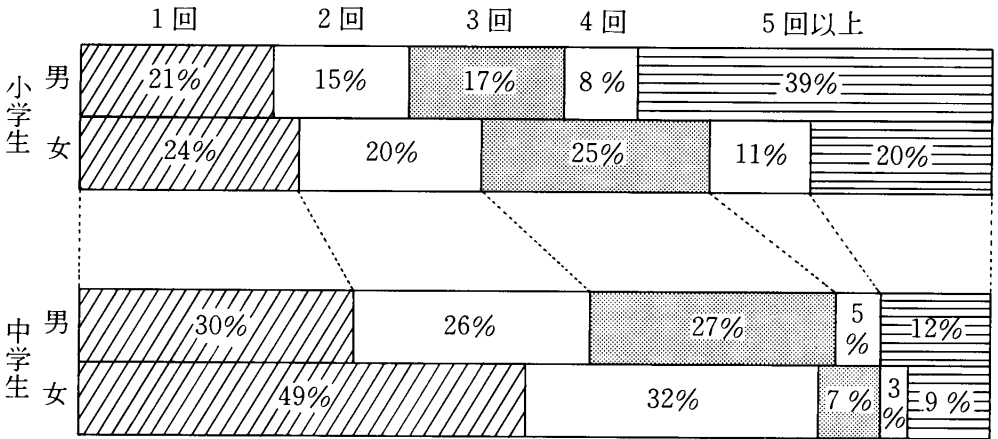


図6 学校別・性別・来館回数

この図6からわかるように、来館回数は、小学生と中学生、男女によりかなりの差異がある。5回以上も博物館を見学したことのあるものは、小学生男子が圧倒的に多く、小学生女子がこれに次ぎ、中学生は少ない。特に、中学生女子の半数は1回だけの見学に終わっている。中学生は、小学生に比べ、1回だけの見学に終わっているものが多い。

イ. 地域別の来館動向

鹿児島市を博物館を中心に、2km以内、2km以上4km以内、4km以上の3地域に分け、博物館との距離関係による小学校6年生の来館動向差を分析してみた。

表3は、地域別に分析した、学校数とアンケート用紙数(児童数)を示したものである。

図7は、博物館を1回でも見学した経験のあるものを、地域別に百分率で表したものである。この図7からわかるように、4km以内の地域では、90%近い児童が少なくとも1回は博物館を見学しているのに比べ、4km以上の地域では、約60%しか来館経験がないことにな

る。

図8は、地域別の来館回数を男女別に表している。

この図8から、男女ともに、博物館から遠い地域ほど、来館1回だけの児童数が多くなり、逆に、来館5回以上の児童数が少なくなることがわかる。

地 域	学校数	アンケート数	
		男	女
2 km以内	8	179	149
2～4 km	12	246	219
4 km以上	19	237	216
計	39	662	584

表3 地域別の学校数と児童数

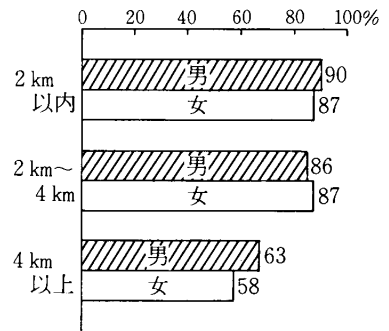


図7 地域別来館経験者

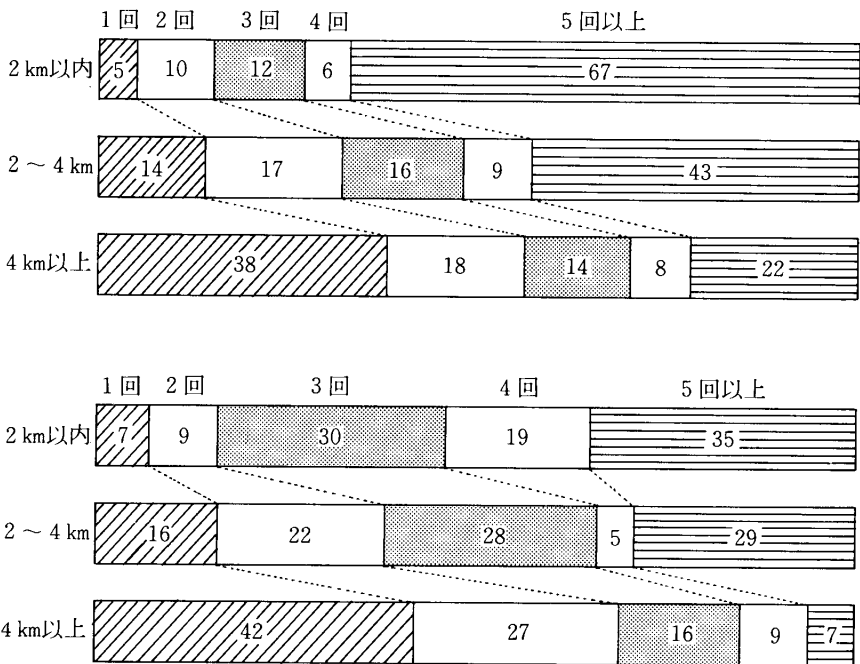


図8 地域別の来館回数

ウ. 来館同伴者の動向

図9・10は、来館のときの同伴者を小・中学校別・男女別に表したものである。

この図9・10から、小・中学生ともに、1人で来館することは少なく、友だちや家族と来館する傾向があることがわかる。さらに、小学生は、中学生に比べ、家族や先生と同伴する傾向が大きいことが特徴的である。これらの傾向は、男女を問わない。

図11は、地域別に来館同伴者を示したものである。この図11から、博物館に近い地域ほど友だちと同伴する児童が多くなることがわかる。また、2 km以上の地域は、2 km以内の地域に比べ、家族や先生と同伴する児童数がや、多くなる傾向にある。

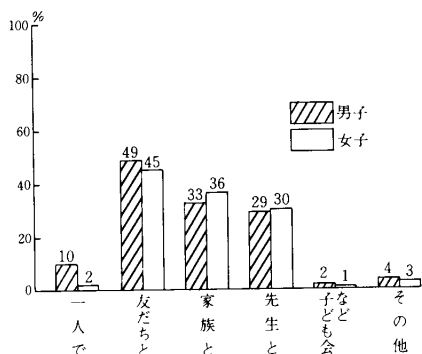


図9 来館同伴者（小学校6年生）

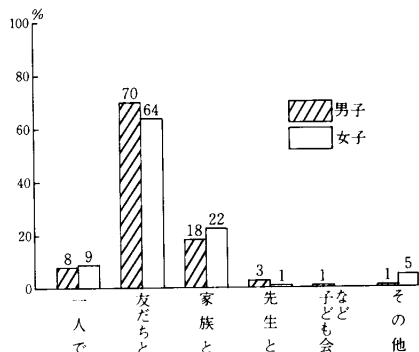


図10 来館同伴者（中学校3年生）

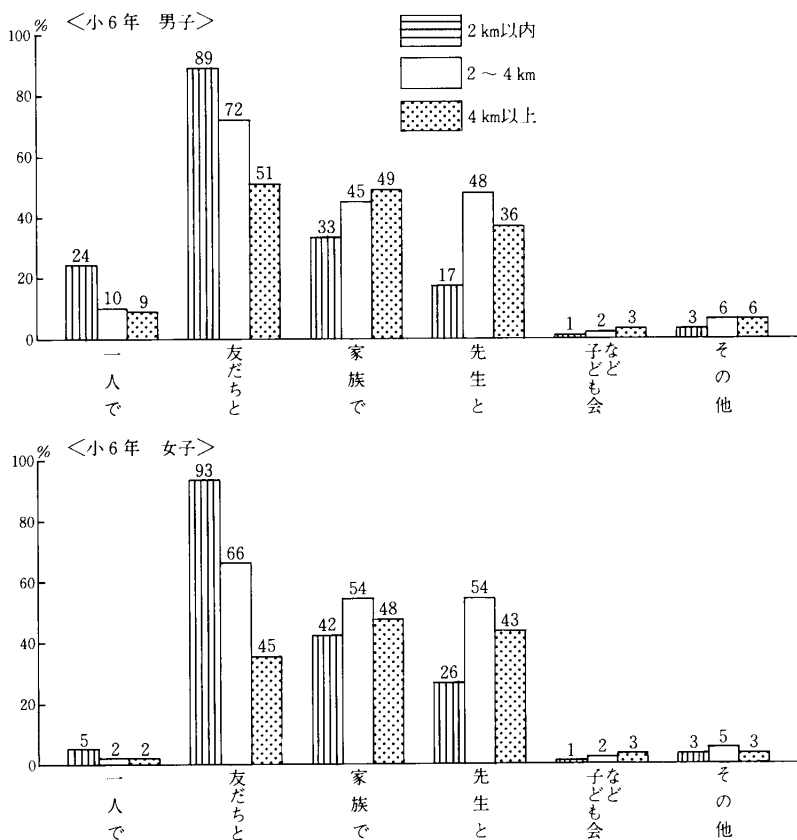


図11 地域別の来館同伴者

エ. 来館しなかった理由

図12は、今までに1回も来館しなかった理由を、小・中学生別、男女別に示したものである。小・中学生別、男女別を問わず、来館しなかったものの80～90%が「興味がない」か「暇がない」を理由にあげている。また、中学生は、小学生に比べ「興味がない」をその理由に

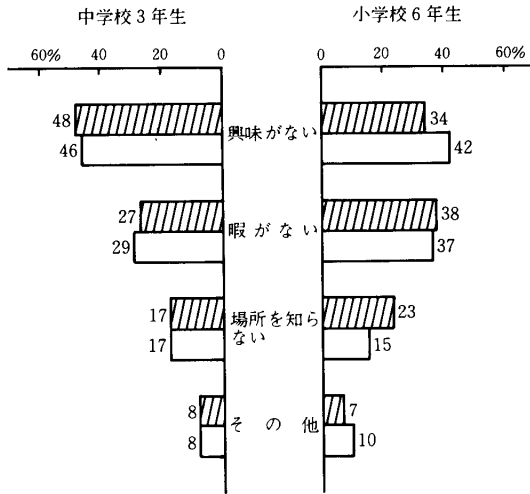


図12 来館しない理由

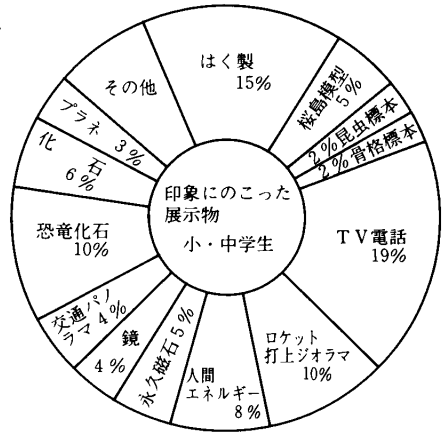


図13 展示物の興味・関心度

あげている数が多い。この原因分析は、今後、博物館、学校に残された課題であろう。

オ. 展示物への興味・関心度

「はく製」・「T V 電話」・「ロケット打上ジオラマ」・「恐竜化石」などの展示物への興味・関心度が強いことがわかる。

展示物の興味・関心度については、今後、来館当時でのアンケート調査等をもとに、あらゆる角度から再調査したい。

(3) この項の要約

- (1) 鹿児島市内の小学校6年生は、男女ともに70%の児童が、中学校3年生では30%の生徒が少なくとも1回は来館している。
- (2) 中学校3年生は、小学校6年生に比べ、1回か2回の来館回数が多く、5回以上の来館回数が少ない。また、中学校の女子の来館回数は、男子に比べて少ない。
- (3) 小学校6年生の男子は、女子に比べ5回以上の来館経験者が多い。
- (4) 小学校6年生では、4 km以内の地域の90%近い児童が少なくとも1回は来館しているのに比べ、4 km以上の地域は60%程度である。
- (5) 小学校6年生では、男女を問わず、近い地域ほど来館回数は多くなる。
- (6) 小・中学校別、男女別を問わず、「友だち」と同伴しての来館が多く、「1人」だけの来館は少ない。小学生は、中学生に比べ、家族や先生と同伴しての来館が多い。
- (7) 小学校6年生では、男女を問わず、近い地域ほど友だちと一緒に来館する児童が多くなり、家族や先生と来館する児童がや、少なくなる。
- (8) 今まで、1回も来館したことのない小・中学生の80~90%は、「興味がない」か「暇がない」かをその理由にあげている。この傾向は、中学生にや、大きい。

3 学校の博物館団体利用と展示物等に対する意識調査

学校教育活動の一環として、意図的・計画的に博物館を利用している学校も多い。今回そのような学校の利用の状況や展示物等に対する学校側の意見や要望などの意識を調査した。

調査は、昭和58年度と59年度のいずれかに学校教育の一環として県立博物館を利用した国・公・私立の小・中・高及び特殊教育諸学校に対して、アンケート方式で実施した。回答のあった学校数は右の表4のとおりである。

表4 アンケート調査に回答した学校数

小学校	中学校	高等学校	特殊教育諸学校
244	39	2	2

調査結果の集計及び分析・検討に当たって、特殊教育諸学校2校の回答は、小学部及び中学部の利用であったため、小学校と中学校に計上し、高等学校については省略した。

(1) 年度別利用

回答を得た小学校245校（特殊教育諸学校1を含む）と中学校40校（特殊教育諸学校1を含む）の58年度及び59年度の博物館利用の内訳は図14のようになっている。

小・中学校とも59年度が少なく、減少の傾向にある。

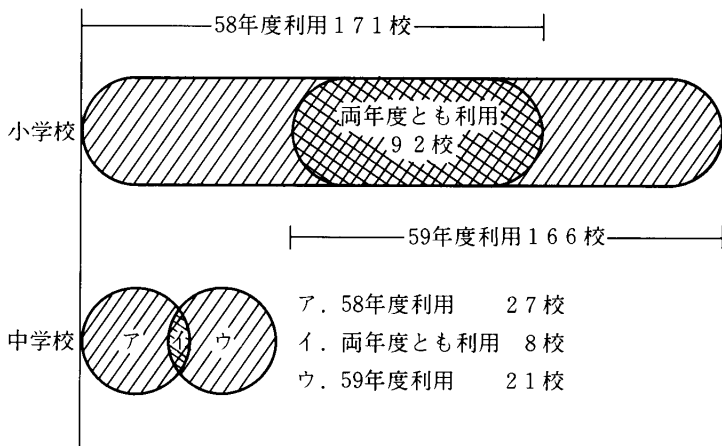
小学校は、両年度とも利用している学校が92校と最も多い。これは、博物館を固定的に利用している学校であると考えられる。

58年度は利用しながら、59年度には利用しなかった学校は、小学校が79校、中学校が19校ある。これらの学校が、59年度に利用しなかった理由については、後で記述する。

問1 貴校では、昭和58年度以来、児童・生徒に県立博物館を団体で見学させたことがありますが、下の該当する年度と施設の欄に見学させた学年を全て記入してください。なお、59年度3学期に見学させる計画のあるところも記入してください。

施設 年度	本館	考古資料館	県文化センター内	
			プラネタリウム	化石展示室
58				
59				

図14 年度別利用の内訳



(2) 施設別の利用

県立博物館は、本館（自然史・理工）・考古資料館・プラネタリウム・恐竜化石展示室の四つの施設に分けられている。この四つの施設について、施設別の利用状況と施設別学年別

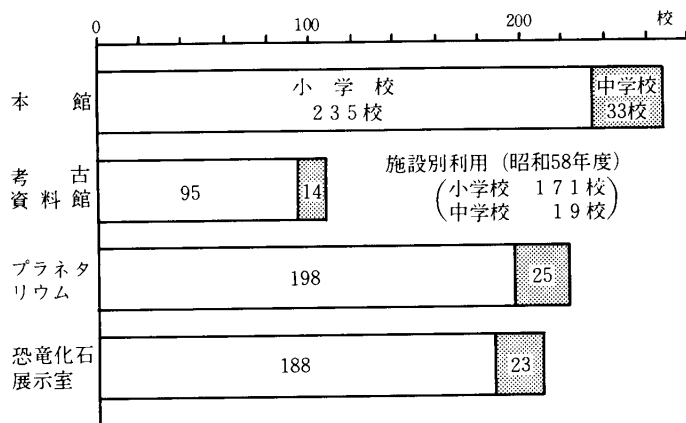
の利用状況を見ると次のようになっている。

ア 施設別の利用

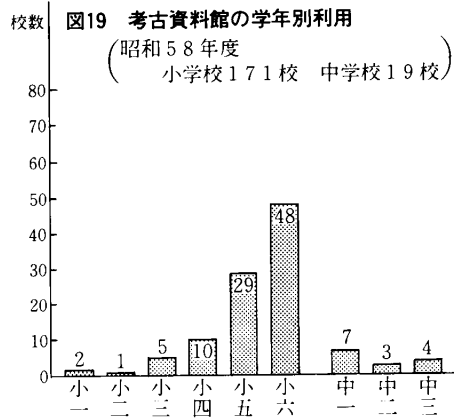
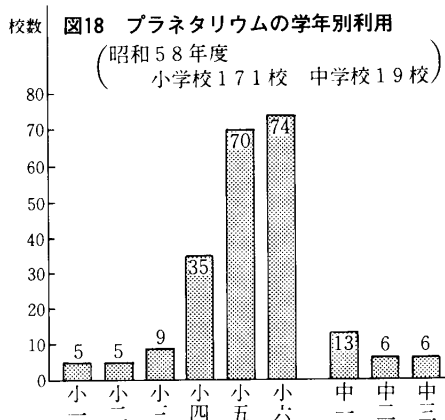
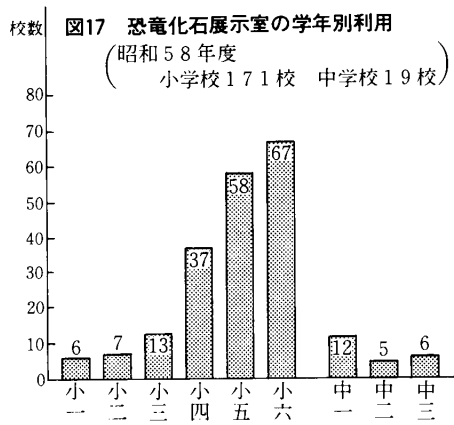
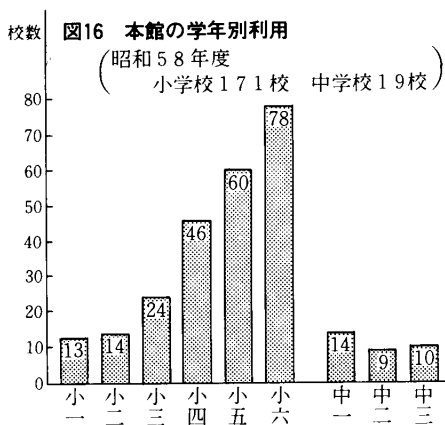
図5 施設別の利用

この図で、利用校数が回答校数を上回るの
は、一校で複数学年が
利用していることを示
している。また、これ
らの学校は、四つの全
ての施設を利用してい
るわけではない。

考古資料館の利用は、
他の三つの施設に比べ
てかなり少ない。



イ 施設別学年別利用



四つの施設とも小学校では学年が進むほど利用校が増え、中学校では1年生の利用が多い。小学校5年生では、プラネタリウムの利用が他の施設に比べて多いが、これは理科の学習内容である「星の動き」の学習と関連させた利用がなされているためであろう。

どの学年で博物館を利用するかは、遠足で利用するか、修学旅行で利用するかに因るところが大きい。鹿児島市を修学旅行のコースに入れている地域では5年生と6年生の利用が多く、遠足のコースに入れているところでは他の学年が多く、地域差がある。

(3) 継続利用しない理由

「年度別の利用」の項で明らかになったように、58年度に利用しながら、59年度は利用しなかった学校が、小学校は79校、中学校は19校ある。これらの学校が継続して利用しなかった理由は、表5のとおりである。

問2 58年度に見学させ、59年度には中止した学校は、その理由を書いてください。

()

表5 継続利用しなかった理由

理 由	小学校	中学校
1 修学旅行は隔年おきに実施、遠足の鹿児島コースは隔年おきに実施	49校	2校
2 歴史資料センター黎明館を見学したので博物館利用の時間がない	16	13
3 修学旅行や遠足のコースを鹿児島市以外に変更	11	1
4 遠足の日に博物館が休館	3	2
5 雨天のため遠足を変更	0	1

最も多い理由は、小規模校では、5年生・6年生が同時に隔年おきに修学旅行を実施したり、遠足も、複数学年でコースを隔年おきのローテーションで実施したりすることにある。これらの学校では、59年度は修学旅行を実施しなかったか、あるいは遠足が他のコースをとっていたかして、博物館利用がなされなかったのである。しかし、このような学校では、いずれかの学年で一度は県立博物館を利用するように計画を立てていることになる。

2番目の理由は、昭和58年10月、新しくオープンした歴史資料センター黎明館を見学のコースに入れたため、県立博物館を利用する時間がなかったというものである。この2番目の理由や3番目の理由は、修学旅行・遠足の目的地や見学施設等が定まらず、県立博物館の利用が、まだ固定化していないことを示している。

また、このことは教育機関や、それに相当する施設等が増設されていく中で、学校は、それらをできるだけ多く利用・見学させようとしているのであるが、そのような活動に当てる時間には限度があるということも示している。

(4) 博物館利用の学校教育活動への位置づけ

県立博物館を利用するためには、かなりの時間を費してしまう。学校では、この博物館利用

の時間をどの教育活動の時間として位置づけているのだろうか。

県立博物館を修学旅行や遠足などの学校行事として利用する学校が圧倒的に多く、教科の時間やゆとりの時間の活動として利用する学校は少ない。これは、県立博物館

から遠距離にある学校では、往復に要する時間を考えると当然のことであろう。

どの教育活動として利用するかには地域差があり、鹿児島市の小学校の場合、学校行事の時間10校、教科の時間5校、ゆとりの時間11校となっている。

問3 児童・生徒に県立博物館を団体見学させる場合、下記のどの教育活動に位置付けましたか。該当するものに○印を付けてください。

- () 修学旅行や遠足など、学校行事の時間の活動として。
- () 理科や社会科など、教科の時間の活動として。
- () ゆとりの時間を活用した創意ある教育活動として。
- () その他 () の教育活動として。

表6 博物館利用の教育活動への位置づけ

諸 教 育 活 動	小学校	中学校
1 修学旅行や遠足など、学校行事の時間の活動として。	225校	33校
2 社会科や理科など、教科の時間の活動として。	7	3
3 ゆとりの時間を活用した創意ある教育活動として。	11	2
4 総合学習の時間の活動として。	0	1

(5) 博物館利用の目的

遠足や修学旅行の学校行事の時間、ゆとりの時間等の活動として、県立博物館を利用するとき、どのような目的を持っているのだろうか。

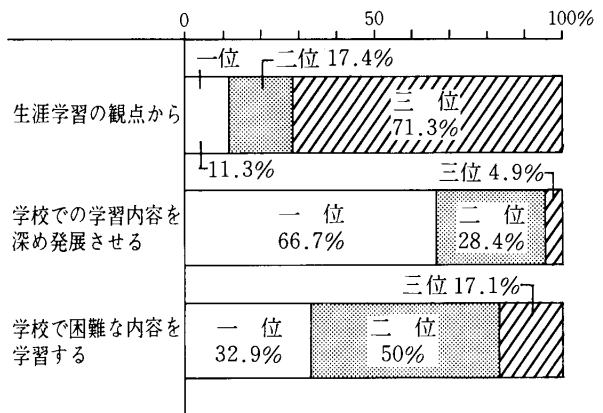
「生涯学習の観点から」、「学校での学習内容を深め発展させる」、「学校での学習内容であるが困難なものを学習させる」、「その他」の4つの目的を設定して、順位をつけてもらった。それぞれの目的についての順位を割合で表すと、図20のとおりである。

利用の目的の第一に、「学校で学習した社会科や理科の内容を更に深めたり、発展させたりする学習をさせたい」という項目を選択した学校が圧倒的に多い。学校行事は、各教科・道徳・児童活動などの学習や経験を総合的に発揮させ、その発展を図る集団活動である(小学校指導書特別活動編P15)となっており、修学旅行や遠足などの学校行事の活動として、このような目的を持って博物館を利用することは適切

問5 貴校が、県立博物館を児童・生徒に団体見学させる目的は、下記のうちどれですか。重要と考える順に()内に番号を書いてください。

- () 生涯学習の観点に立ち、博物館(教育機関等)の利用の仕方を身につけさせたい。
- () 学校で学習した社会科や理科の内容を更に深めたり、発展させたりする学習をさせたい。
- () 社会科や理科の学習内容ではあるが、教材または地域的な特性から、学校だけでは学習困難な内容を学習させたい。
- () その他 ()

図20 博物館利用の目的(小学校245校、中学校40校)



なことであるとする。一方、県立博物館でも、このような趣旨に沿い、郷土の自然や科学・埋蔵文化に関する資料を解説展示している。

第二の目的として、「社会科や理科の学習内容ではあるが、教材または地域的な特性から、学校だけでは学習困難な内容を学習させたい」ということを選んだ学校が多い。社会科や理科は社会的事象や大自然の事象を対象にして学習を進める内容が多いが、学校近辺の社会的、自然的な環境が必ずしもそれに適しているとは限らない。おそらく、足らざるを補う意図で、これらの諸学校は、指導過程の中に博物館での学習を位置づけているのであろう。ただこのように学校が教科の内容を博物館で学習させるとき、展示資料の内容や解説の仕方、説明の仕方などは必ずしも、学校の希望に沿うものばかりではない。例えば、プラネタリウムの見学の場合、5年生の「星の動き」の学習内容を期待していても、それは一部だけ投影されるだけのことが多い。いわゆる一般投影であり学習投影ではない。学校で学習困難なものを博物館で学習させ、十分な効果を上げるためには、事前に学校と博物館との十分な打ち合わせが必要となってくるであろう。

第三番目に選択された目的は、「生涯教育の観点に立ち、博物館の利用の仕方を身につけさせたい」ということである。これは、県立博物館が生涯教育を旨としている以上当然期待されるべき回答である。そして、これは児童・生徒が再三再四博物館を利用していく中で培われるものであって、博物館利用の究極的な目的ともいえるものであろう。

その他、特殊教育諸学校の「総合学習の場として利用する」とか、「郷土の自然や文化遺産に親しまさせる」といったものが挙げられていた。

(6) 県立博物館利用の時間

県立博物館を利用するために要した時間を調査したが、結果は次の通りである。

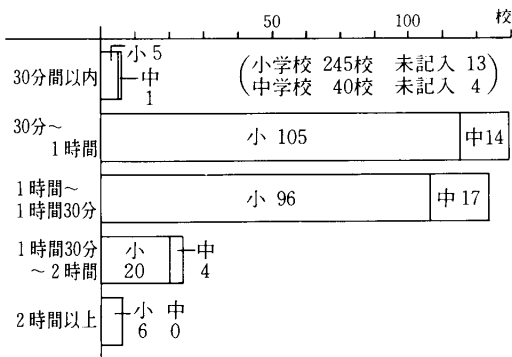
修学旅行や遠足のときは、他の施設の見学もあり、博物館利用にだけ長時間費やすわけにはいかない面もあり、四つの施設を全て見学するだけの時間を当てている学校は少ない。そのため、四つの施設のうち、2ないし3の施設を選んで見学させている。

博物館の利用の仕方にもよるが、各施設の見学に要する時間は、およそ次の通りである。

- 本館 40分～50分
- 考古資料館 20分～30分
- プラネタリウム 30分～40分

問6 県立博物館の見学に要した時間はどれぐらいですか。
下記の該当するものに○印を付けてください。
 30分以内 30分～1時間
 1時間～1時間30分 1時間30分～2時間
 2時間以上

図21 博物館利用に要した時間



○恐竜化石展示室 20分～30分

(7) 他の教育施設等の利用

参考までに、他の教育施設についても問うてみた。未記入の学校が多数あったが、結果は表7のとおりである。

表7 他の教育施設等の利用情況

教育的施設	小学校	中学校
県立青少年センター	74校	11校
県立青年の家	2	0
県立図書館	16	1
市町村立の自然の家・郷土館	69	5
平川動物公園	126	3
私立の博物館相当施設	68	4
歴史資料センター黎明館	106	27

問4 県内には自然科学や社会科学に関する博物館、郷土資料館、動植物園、美術館、図書館、青少年自然の家、研修センターなどの多くの教育施設があります。貴校の計画的な教育活動として、その利用を位置付けている教育的な施設にはどのようなものがありますか。下記の記入例にならって右側の欄に、昭和59年度のを記入してください。

〈小学校〉

	記入例	
1年生	平川動物園	
2年生	かごしま熱帯植物園	
3年生	枕崎かつお博物館	
4年生	鹿児島市立少年自然の家	
5年生	県立青少年研修センター 県立博物館	
6年生	歴史資料センター黎明館	

〈中・高等学校〉

1年生	尚古集成館	
2年生	県立青少年研修センター	
3年生	歴史資料センター黎明館	

この数字は、県内の小学校 245校及び中学校40校の調査結果であり、ここでは、その利用の傾向をとらえるだけに止めておきたい。私立の博物館相当施設では、尚古集成館、奄美の里、枕崎かつお博物館等の利用が多かった。

(8) 児童・生徒に対する説明の内容や方法

大部分の学校は、「現状のままでよい、特になし」などであったが、下の表のような重要な意見を寄せてもらった。これは、類似の要望は一つにまとめ、小・中学校の回答を合わせて、多い順に記述したものである。

問7 県立博物館では、団体入館者に対し展示内容について概略を説明した後、自由見学の時間を設定して見学させるようにしています。貴校が、学校の教育活動として博物館を利用するとき、その方法や説明内容について要望がありましたら書いてください。

説明の内容や方法についての要望 (一部省略)

1. 学年に応じた分かりやすい言葉で説明する。
2. 児童・生徒用のパンフレットを作成する。
3. 事前に「利用の手引き」等を送ってもらい、打ち合わせを十分行う。
4. 学年の学習内容に合った重点を決めて説明する。
5. 全てのコーナーで説明する。
6. 博物館の内容や役割についても説明する。
7. 視聴覚機器を使って説明する。

要望の3の「利用の手引き」の作成については、館内でも話題になっていることで必要を感じている。また、事前指導には博物館要覧も活用してほしいものである。「全てのコーナーで説明を」の要望は、

利用する学校側の時間とも関係するので、学校との事前の打ち合わせが必要となってくる。

他の要望も、もっともなものばかりで、実現へ向け検討していきたい。

(9) 展示物に対する要望

展示物に対する要望も書いてもらったが、「現状のままでよし、特になし」の意見が多かった。

また、記者が最近、博物館を訪れた場合やそうでない場合もあって、要望の中には既に展示してある内容のものもあった。これらのものも含めて、要望として記入されたものを多い順にまとめると次のとおりである。

植物分野

1. 地域別に植物の分布を示すもの
2. 植物標本の作り方を順序をふまえて
3. 路傍 300種など身近にある植物
4. 形態や生態のおもしろい植物
5. 教科書にある植物や理科で学習する植物
6. 顕微鏡を使った植物の組織や細胞の観察
7. 植物のつくりや光合成に関するもの
8. 植物の進化に関するもの
9. 子供が作った植物標本
10. 植物の季節による変化
11. 植物の北限と南限

動物分野

1. 地域別に動物の分布を示すもの
2. 採集の仕方や標本の作り方
3. 昆虫の一生や生態を示すもの
4. 動物や人類の進化に関するもの
5. 世界や鹿児島県の昆虫標本
6. 人体のつくりと各部分のはたらき
7. 原生動物の顕微鏡観察
8. 教材として学習する昆虫や小動物
9. 動物と人間の共存
10. サシバやツバメなど渡り鳥に関するもの
11. 動物の生まれ方の違い
12. 動物の南限と北限
13. 子供が作った昆虫標本
14. 動物と環境

問8 貴校が、学校教育の一環として県立博物館を計画的に見学させるとき、特に、どんな内容の展示物を展示して欲しいですか。次の分野ごとに書いてください。

地質分野

1. 地層のでき方が分かるような地層模型
2. 地域ごとの地質・地史・岩石の分布など
3. 示準化石など化石を豊富に
4. 桜島火山の内部やしくみが分かる断面図
5. 川のはたらきが分かるもの
6. 化石標本の作り方や市町村別の化石産地
7. シラス・コラ・ボラのでき方と分布
8. 岩石、鉱物のでき方、使われ方
9. 地下水のゆくえ
10. 段丘のでき方
11. 火山からの噴出物
12. 地球の内部構造を示すもの
13. 鹿児島の気象の特徴

理工分野

1. ロボットやパソコンなどの先端技術
2. 小・中学校での理科実験の演示
3. 宇宙科学や宇宙開発構想に関するもの
4. 子供が自由に操作したり、工作したりするコーナー
5. 学校ではできないいろいろな実験
6. 機械類のしくみを解説するもの
7. 原子炉の模型や原子力発電のしくみ
8. 鹿児島の科学史や科学発達に尽くした人
9. テレビ映像のしくみ
10. ミニスタジオ
11. 郷土の産業に関するもの

これらの分野ごとの要望以外にも「低・中・高学年別の展示コーナーの設置」・「教材内容のコーナーの設置」・「伝統工芸品の展示」などの要望が寄せられた。

各分野ごとの要望を見ると、社会科や理科の学習内容に直接かかわる内容も多く見られる。このことは、学校教育と博物館をよりいっそう深く結びつけるものとして、その方策を今後検討し、研究していかなければならない課題を提示している。

また、植物・昆虫・貝・地質等では、地域別の展示が要望されており、先生方の教材研究や郷土教育に役立てたいという意向もうかがえる。

(10) 博物館への要望や利用についての意見

ほとんどが現状に対して肯定的な意見であったが、寄せられた要望や意見を多し順にまとめると次のとおりである。

天体分野

1. 太陽、月、星の動きなど、学習内容と関連させた解説投影
2. ハレー彗星に関すること
3. 地球の公転に関すること
4. 地球と他の惑星との類似点と相異点
5. 太陽や金星の観察の仕方
6. 天体写真とその写し方

考古資料分野

1. 遺跡の場所が分かるような地図
2. 時代ごとの生活様式が分かるパノラマ
3. 社会科の学習と結びつく解説展示
4. 熊襲の文化
5. それぞれの時代の生活のちえ

問9 1～8のアンケートの内容以外で、県立博物館に対する要望や意見がありましたら書いてください。

()

1. 児童・生徒にゆっくり見学させたいが、時間的ゆとりがなくて残念だ。
2. 何回も利用させたいが、経費や時間の面でできない。
3. 博物館の施設が分散しているので、時間的にむだがあり、雨の日など不便である。
4. 移動博物館を是非実施してほしい。
5. 学校教育活動で実施するときは、黎明館のようにプラネタリウムも無料にならないか。
6. 展示物のカラー写真、VTR、カラースライドの配布はできないか。
7. 駐車場があれば便利なのだが。
8. 展示の内容を替え、いつも新しい資料を展示してほしい。

これらの要望や意見は、利用者の側からは、もっともなことばかりであり、博物館としても検討していることであるが、早急に実現するには困難な問題である。

Ⅲ お わ り に

今回の調査によって、学校が教育活動の一環として、博物館を利用するときの問題点や要望等を明らかにすることができた。この調査を終わるに当たり、これらの問題点や要望をふまえて、博物館活動の今後の課題と展望を、次のとおりまとめてみた。

博物館利用上の問題点と要望

- 他の教育機関や施設も利用・見学させたいので、毎年固定したところの博物館利用は困難である。
- 修学旅行や遠足等で博物館を利用・見学させているが、時間的制約があり、全てを利用・見学できない。
- 学校で団体利用する以前に、個人的に利用している児童・生徒もかなりいる。このような児童・生徒のいる学校では、団体利用するとき対応が画一的では効果がうすい。
- 学年の発達段階に応じた博物館での学習の在り方を工夫して、解説や説明にあたってほしい。
- 社会科や理科の学習内容に直接かかわるような内容の展示物も展示してほしい。



博物館活動の今後の課題と展望

- 1 学年にあった対応の仕方を工夫する。そのために、学年の学習内容等を調べ、展示物や説明の仕方・解説資料・記録用紙の作成活用等を検討する。
- 2 学校で行われる社会科や理科の学習内容を加味した展示物や展示方法を考慮すると共に博物館の展示内容と教科指導との関連を明らかにする必要がある。
- 3 学校の団体利用が行われる前に、学校と博物館が十分に打ち合わせ、効果的な博物館利用が行われるような対策が必要である。
- 4 各学校での博物館利用の実践例を紹介するなどして、啓蒙をよりいっそうすすめ、更に多くの学校が利用するように、広報についても検討・工夫したい。
- 5 学校教育と博物館活動の連携について、より研究を進めるためには、協力校を依頼するなどして、長期にわたる研究が必要となってくる。

今後これらの課題解決に努力すると共に、この研究テーマに関する新たな観点からの調査研究を継続することによって、博物館活動の積極的な改善資料を得るよう努めていきたい。